

カナダガン

分類群	鳥類	原産	アメリカ合衆国北部、カナダ
学名	<i>Branta canadensis moffiti</i>	分布	県央・西湘地区
科名	カモ科		
区分	防除種A		
特長	体は濃淡ある褐色、頭から頸は黒色で頬が白く、在来亜種よりも2倍ほど大きく、頸元に白いリング模様はない。	侵入経路	湖沼などで野外飼育を目的として意図的に放鳥された。
影響	捕食、競合、駆逐	防除方法	放鳥防止の徹底
その他	北アメリカ産のオオカナダガンと推定されている。		

ガビチョウ

分類群	鳥類	原産	中国南部から東南アジア北部
学名	<i>Garrulax canorus</i>	分布	横浜市、湘南地区、県央地区、津久井地区、西湘地区
科名	チメドリ科		
区分	防除種B		
特長	上面はオリーブ褐色で、額と腰は淡色。頭頂と背には暗色縦斑があり、囲眼部と眼の後方に伸びる白い眉斑が特徴的で、下面は黄褐色で、喉と胸に黒色縦斑がある。嘴と脚は黄色みをおびる。	侵入経路	愛玩飼育されていたものが遺棄、逸脱したと考えられる。
影響	捕食、競合、駆逐	防除方法	森林の下層植生の管理
その他			

ソウシチョウ

分類群	鳥類	原産	中国南部、ベトナム北部からミャンマー北部、インド・アッサム地方、ヒマラヤ西部
学名	<i>Leiothrix lutea</i>		
科名	チメドリ科		
区分	防除種B	分布	県全域
特長	上面は暗オリーブ緑色で、腹は淡黄色。喉は鮮やかな黄色、上胸は橙色。眉斑から頬は薄い黄色、嘴は赤く、翼に黄色と濃い赤の斑が入っており、尾羽は先端が黒く、2つに分かれる。	侵入経路	愛玩飼育されていたものが遺棄、逸脱したと考えられる。
影響	捕食、競合、駆逐、その他	防除方法	輸入制限と飼育管理の徹底。定着個体群の駆除や制御は困難。
その他			

ノバリケン

分類群	鳥類	原産	南アメリカのコロンビアからペルー
学名	<i>Cairina moschata</i> (Linnaeus)	分布	川崎市、横浜市、湘南区、県央地区
科名	カモ科		
区分	準・防除種B		
特長	眼から嘴にかけて羽毛がなく、赤い皮膚がむき出しになっており、体全体の羽色は個体差が大きく、白色、黒色、白と黒の模様になっているものなどがある。	侵入経路	愛玩飼育されていたものが遺棄、逸脱したと考えられる。
影響	捕食、その他	防除方法	不明
その他	ノバリケンを家畜化したバリケンが野外で確認されるようになった。野生化により、飛翔できるようになった。水生植物、小魚、昆虫、ムカデ、小型は虫類を捕食。シロアリが好物。		

コブハクチョウ

分類群	鳥類	原産	ヨーロッパ、中央アジア
学名	Cygnus olor	分布	横浜市、湘南地区、県央地区
科名	カモ科		
区分	準・防除種B		
特長	全体が白く、ほぼオオハクチョウと同大で、嘴はオレンジ色で、基部に黒いコブがある。	侵入経路	湖沼などで野外飼育を目的として意図的に放鳥された。
影響	競合、駆逐	防除方法	狩猟による駆除
その他			

コリンウズラ

分類群	鳥類	原産	北アメリカ中部・東部
学名	Colinus virginianus	分布	湘南地区、県央地区、西湘地区、
科名	キジ科		
区分	準・防除種B		
特長	上面が赤褐色で、黒褐色の斑があり、尾は灰色。額から眼先と眉斑、喉は白色、胸と脇は赤褐色地に黒と白の斑で、雌は雄よりも顔の白色部分が淡黄褐色になる。	侵入経路	猟犬の訓練用に利用されていた個体が逸脱したと考えられる。
影響	捕食、競合、駆逐	防除方法	輸入制限、飼育管理の徹底
その他			

カオグロガビチョウ

分類群	鳥類	原産	中国中部・南部、ベトナム北部、香港
学名	Garrulax perspicillatus	分布	川崎市、横浜市、県央地区、西湘地区
科名	チメドリ科		
区分	準・防除種B		
特長	顔面は広く黒色、頭頂は灰褐色で、上面は暗褐色、喉と胸は灰褐色で、腹は白灰色、下尾筒は明るい茶褐色で野外では目立つ。	侵入経路	愛玩飼育されていたものが遺棄、逸脱したと考えられる。
影響	競合、駆逐	防除方法	下層植生の管理、捕獲、駆除
その他	東京・神奈川で繁殖の記録がある。		